

カーネーション(スプレー)
Dianthus caryophyllus
 (ナデシコ科)

‘バーバラ’系の品種を中心に、様々な花色の品種が栽培されている。1本でもボリュームがあり、アレンジや個人消費に適する。スタンダードカーネーションに比べて水ストレスがかかりやすくおれやすいため、STSの処理効果が劣る。小花の老化様式はスタンダードタイプと同様である。蕾の開花には糖処理が有効であり、後処理剤として糖を与え続けるとよい。STSを適切に処理して引き続き後処理を行うと、夏季においても10日以上の日持ちが得られる。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
小花の開花・老化	A: 1次花蕾のうち1~2輪が開花する B: 2次花蕾がおおむね開花する C: 先に開花した小花が老化を始める D: 老化していない小花が2輪以下となる	小花の老化の判定は、花弁の萎れ、花弁の褐変・変色の程度による。老化した小花は摘除してもよい。
花弁の萎れ	触ってみて A: 張りがある C: やや軟となる 視覚的に D: 花弁先がやや内側に巻き萎れる	STSで適正に処理されていない場合には萎れが、適正に処理されている場合には花弁の褐変・変色で日持ちが終了する。老化した小花はその後乾燥状態となる。
花弁の褐変・変色	A: 褐変・変色なし C: 外側の花弁に一部褐変・変色あるいは小斑点(直径5mm以下)が生じる D: 花の中心付近の内側の花弁も褐変・変色する	
茎葉の萎れ	触ってみて A: 張りがある B: やや軟となる 視覚的に C: 茎葉に艶がなくなる D: 萎れて葉が垂れ下がる	
灰色カビ病	A: 発生なし 花弁またはがくに C: 小斑点(5mm以下)が生じる D: 大斑点となる	
その他	茎基部の腐り、花色の退色、茎葉・がく片の黄変、C: 軟弱茎、D: 茎折れなど	

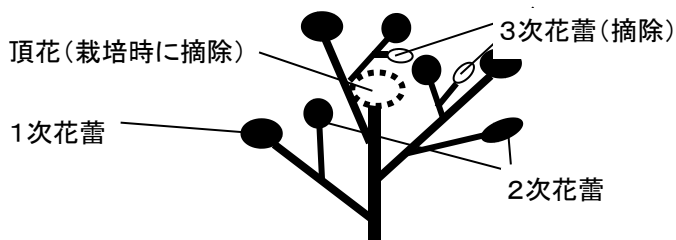
2) 留意点

栽培中にアザミウマが蕾に入ると、開花後の小花の花弁に斑が入り萎縮する。このような切り花は評価対象外とする。

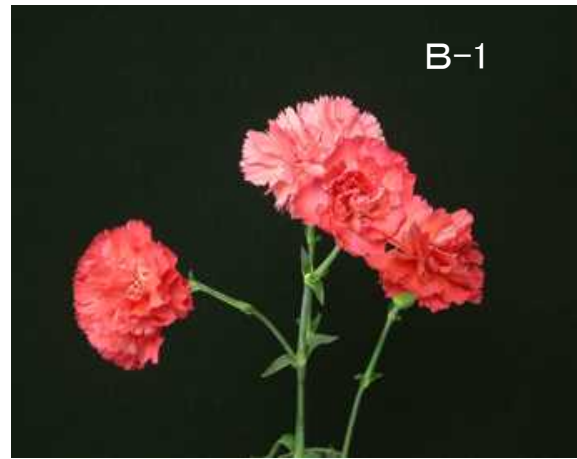
通常頂花は栽培時点で摘除されている。3次花蕾(孫芽)は評価開始時に除去する。その上で小花数(つぼみ+開花)を数え、以後開花数、老化数を数える。老化した小花は摘除してもよい。

品質評価開始時点でSTS過剰障害が強く認められる切り花は評価対象外とする。

多湿下で灰色カビ病が発生しやすく、発生した小花は直ちに取り除く。



3) 開花



4) チェック事項

小花の老化

(花卉の萎れについてはスタンダードカーネーションを参照)



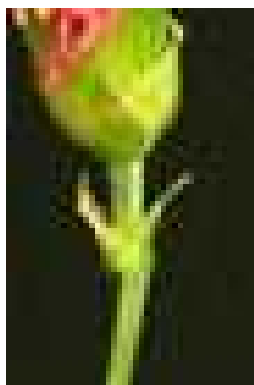
老化前



C: 花卉の変色



D: 花卉の褐変



D: 茎葉, がくの黄変



C: 花卉の退色



D: 葉の萎れ



C: 軟弱茎